

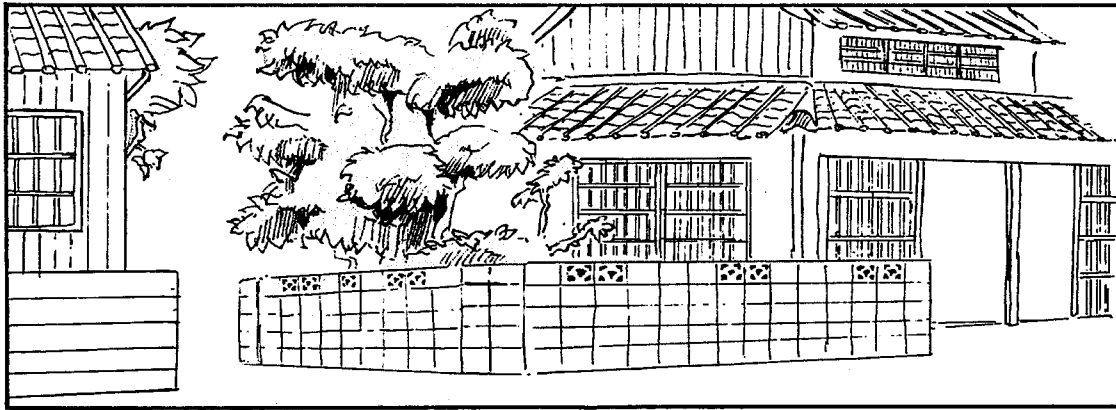


# 田中彫刻記

でんちゅうちょうこくき

ちようこくか めざ  
第一話 ~彫刻家の目覚め~

Takashi  
作 ©いとうたかし



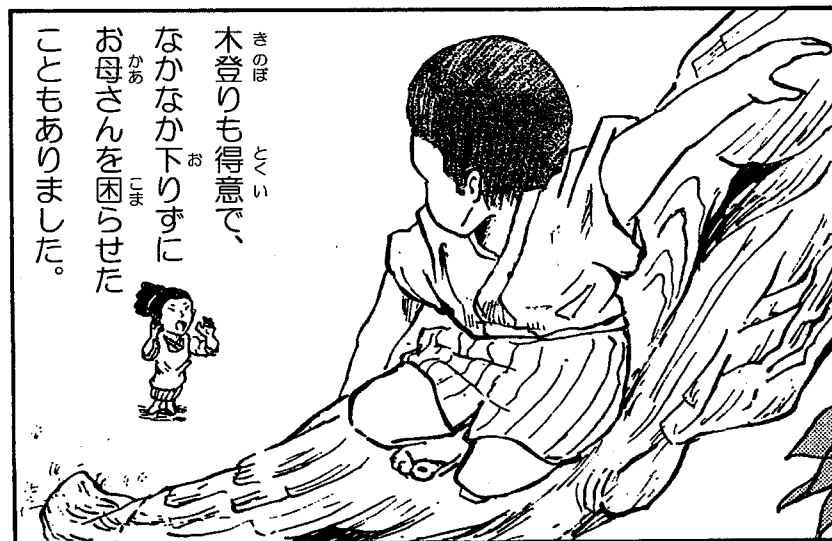
ぶたいめいじねん  
舞台は明治5年、  
おかやまけん  
岡山県にある井原市で  
はじ  
始まります。



たくたろう かんじ  
倅太郎は漢字が好きで、  
へんせつ  
よく勉強をする子でした。



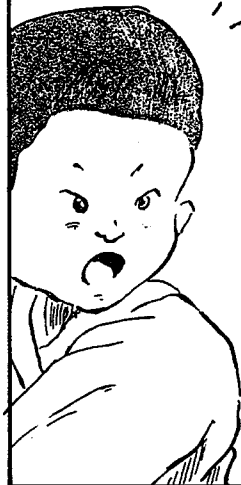
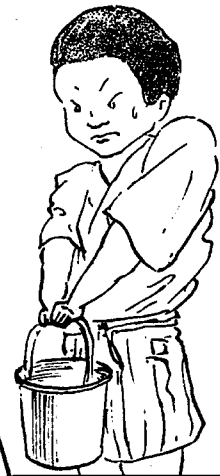
さき  
先ほどから木を飛び回る  
まわ  
ミンサザイを眺めているのは  
なな  
この物語の主人公  
しゅじんこう  
田中倅太郎です。



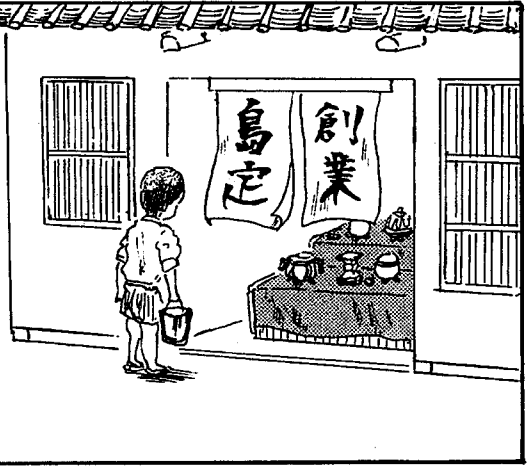
きのぼ  
木登りも得意で、  
とくい  
なかなか下りず「  
な  
お母さんを困らせた  
こともありました。」



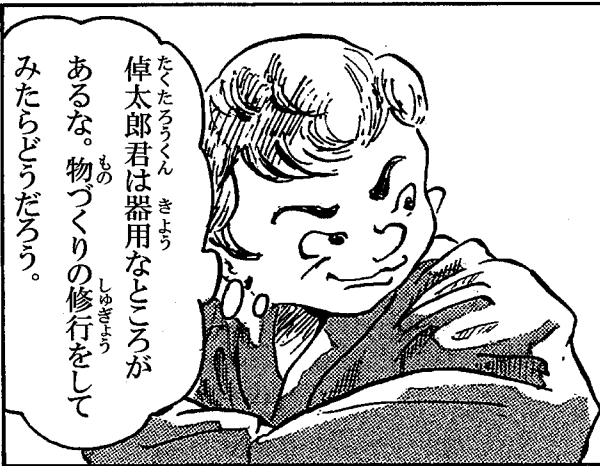
倅太郎が「備員」という小間物問屋で働きに出ているある日のことです。



「備員」の向かいにある銅器の貿易商、様々な形の銅器が並んでいるのに気付きました。



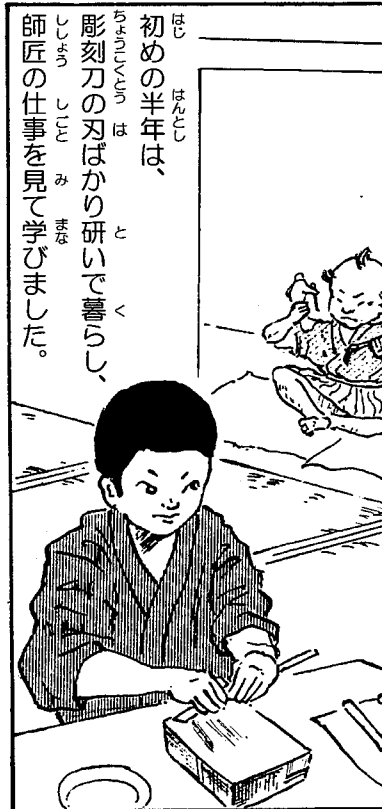
夢中で銅器に見入っている倅太郎に、お店の番頭が眼をつけました。



倅太郎君は器用なところがあつた。物づくりの修行をしてみたらどうだろう。



22才になった倅太郎は、彫物への憧れを胸に、当時の有名な人形師中谷省古に弟子入りしました。



初めての半年は、彫刻刀の刃ばかり研いで暮らして、師匠の仕事を見て学びました。



この頃に学んだ木彫や彩色の技法が、彫刻家の道を進むきっかけになるのです。